

松波小学校だより

第9号
令和5年3月24日
能登町立松波小学校

令和4年度の終わりに

3月に入ってから暖かい日が続き、桜のつぼみもうほころび始めています。

3月17日金曜日、本校体育館にて第54回卒業証書授与式が行われ、15名の卒業生が中学校へと巣立っていきました。卒業式直前にインフルエンザが猛威を振るったので、卒業式が無事開催できるか、大変心配しましたが15名全員がそろって旅立ちの時を迎えることができ、ほっとしています。

在校生、職員ともに卒業生への感謝を言葉や態度で表し、思い出に残る卒業式にしようとして取り組み、今できる精一杯のことをして送り出しました。中学校ではさらに、自分の可能性を生かし活躍してほしいと願っています。

令和2年から実施された学習指導要領では、教育の目的として「多様な人々と協働しながらさまざまな変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」と書かれています。

コロナウイルス感染症の大流行やロシアとウクライナの戦争などに見られる全世界的な困難や課題も、国際的で多様な人々と協働し、答えがあるかどうかわからない課題、答えが一つではない課題にも今を生きる子どもたちは対応していかなければならないのだと卒業生を見ていて思いました。そして学校教育は、まさしくそのような子どもを育てていかなければならないと思いました。

令和2年度から令和4年度までの3年間、松波小学校でお世話になりましたが、私はこのたび校長職を退くこととなりました。この3年間振り返ればコロナウイルス感染の急拡大による全国的な休校から始まり、インフルエンザの猛威にも見舞われ危機対応に迫られる事が多々ありました。また、今年度は創立150周年ということもあり心に残る思い出深い年となりました。これもひとえに保護者の皆さん、地域の皆さんのおかげと感謝しています。

またいつか、どこかでお会いすることがあるかと思いますが、その時は気軽に声をかけてください。本当にありがとうございました。

令和5年3月
松波小学校 校長 前田 稔子